

ランドスケープデザイン部門

—まちが美しくなるみどりづくり—

大阪府 知事賞

松原公園

【事業主】高槻市都市創造部公園課
【設計者】(株)ランテック計画事務所
【施工者】三協開発(株)
(有)ワカバ

Address

A 高槻市八丁畷町、松原町

Outline

昭和31年に開設した松原公園は、高槻市の中心市街地にありながら、江戸時代からの由緒あるクロマツが立ち並ぶ歴史情緒あふれる都市公園である。南北に細長い延長約330mの公園であり、多くの人が憩いながら通行する場となっている。今回、本公園と隣接する府道の拡幅工事が行われ、公園区域の一部が道路区域となることから、従前の公園面積を確保するため、公園を後背地の水路上にセットバックするとともに、美観や利便性が向上するよう全体の再整備を行った。

主な整備内容:水路の暗渠化による広場の拡大、松並木の補植・再生、植栽整備、園路舗装、スロープ等のバリアフリー化、石積擁壁の整備、園名柱の設置、ベンチ・パーゴラ等の設置。

Review

松原公園は慶安2年高槻城初代藩主が高槻城から西国街道に通じる道路を新設し、その際クロマツを植えた八丁松原が始まりである。市の中心市街地にありながら江戸時代からの由緒あるクロマツが現在でも56本立ち並び、歴史情緒ある風景を創出している。南北両端の出入り口に設置された江戸時代の道標をイメージした園名柱や石積擁壁、石畳をイメージした舗装材などとともに府道と公園との境界に築地堀が設けられ、かつて参勤交代が行われていた当時を彷彿とさせる歴史性の継承が強く意図されている。また、風景の基調となるクロマツと調和がとれ、四季折々の花や紅葉等が楽しめる中低木が2千本余り植栽されており、豊かな地被植物とともに歴史街道を華やかに彩っている。

隣接する府道の拡幅工事によって失われる公園面積を確保するために、開水路を幅3m、123mに渡って暗渠化し、広場の拡大や松並木の補植・再生、新たな植栽整備、園路舗装等が行われるとともにスロープの設置などバリアフリー化も図られている南北に細長い約330mの都市公園である。

多くの人が行き交う市のシンボリックな風景を創出しており、多くの市民が憩いながら通行している。

(大阪府立大学 増田 昇)

奨励賞

Keyakinomori

【事業主】(有)森正

【設計者】積水ハウス(株)

【施工者】積水ハウス(株)

積和建設関西(株)

常陽建設(株)

杉田造園(株)

Address

D 東大阪市菱屋西2丁目106番131の一部

Review

長瀬川沿いに広がる閑静な住宅地のなかに、ケヤキをシンボルとした新たな居住空間のランドスケープが創出された。敷地一帯は、昭和初期、日本映画の近代化の礎となった帝国キネマ長瀬撮影所が建てられ、跡地に樟蔭学園の創立者森平蔵氏が私邸を建立したという固有の歴史を有する。銘木を駆使して造られたその私邸は、重厚な塙と豊かな緑に囲まれて、敷地隣りに登録有形文化財として残っている。

もとは一続きの地で緑に覆われていた一画を人々の新たな住まいの場として創造するにあたり、当地の歴史と共に醸成されてきた存在感のある樹木を再利用しつつ、様々なアイレベルで楽しむ植栽を新たに組み合わせることで、独自の軽やかな景を生み出している。一方で、植栽の生育状況や人工物の色調も相俟って現状では隣地の重厚感とやや対照的に過ぎ、今後の植栽の生長と適切な維持管理により、徐々に馴染んでいくことを期待したい。

(奈良県立大学 井原 縁)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 会長賞

公益財団法人 藤田美術館

【事業主】公益財団法人 藤田美術館

【設計者】大成建設(株)関西支店

一級建築士事務所

【施工者】大成建設(株)関西支店

Address

B 大阪府都島区網島町10番32号

Review

藤田美術館は、関西経済界で活躍した藤田伝三郎が収集した美術品を収蔵し、これまでも春・秋の展覧会で多くの人々に親しまれてきました。敷地は、大正期に営まれた伝三郎とその子息の邸宅の一部にあたり、戦前までは隣接する大阪市毛馬桜ノ宮公園藤田邸地区とは一体でした。こうした歴史を踏まえ、美術館の周囲にめぐらされていた堀が撤去され、まちや公園に開かれたランドスケープが創出されたことは大きく評価されるでしょう。

多宝塔や飛鳥・奈良時代の礎石を用いた「回顧の庭」、数寄者(茶人)としても活躍した伝三郎親子の伝統を受け継ぐ「茶の湯の庭(露地)」、「見立ての庭(枯山水)」など、公園と連続するように新たにデザインされた美術館の庭園は、「庭の文化」と「園の芸術」に親しむ「知の庭園」を目指すもので、既存の樹木を保存し自生種を用いることで生物環境の保全に配慮されています。

漆喰壁を多用した美術館の建築には、旧収蔵庫の窓や床材が転用され、土間にも畳石を転用するなど、古と現在をつなぎ、また都市空間と美術館をつなぐ工夫に富んでいます。人々が集い、憩い、楽しむ場として長く親しまれることを願います。

(京都芸術大学 仲 隆裕)

奨励賞

健都レールサイド公園

【事業主】吹田市

【設計者】(独)都市再生機構

(株)アーバンバイオニア設計

(株)日本インシーク

【施工者】(株)昭和造園土木

阪神園芸(株)

(株)理研グリーン

タイキ・井畑造園

土木特定建設工事共同企業体

Address

E 吹田市片山町1丁目～岸部新町

Review

操車場跡地への国立循環器病研究センター移転を契機に進められてきた北大阪健康医療都市(健都)は「健康・医療のまちづくり」をテーマに据えており、本公園もその一翼を担うものです。

公園を核に利用者が主体的な健康づくりを実現できるデザインの工夫が随所になされ、先進的な取り組みとして評価できます。特に鉄道沿いの細長い敷地を活かしながら、利用者の年代や体力等に合わせた細やかなゾーニングは、多様な健康遊具とそれを利用する人による様々なシーンを公園内随所に形成しています。

今後は、医療機関ほかとのさらなる連携により公園から生まれるコミュニティや活動が充実し、魅力ある公園づくりの担い手として育っていくことを期待します。

(大阪大学 松本 邦彦)

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 関西支部長賞

東大阪市 文化創造館

【事業主】東大阪市

PFI東大阪文化創造館(株)

【設計者】(株)佐藤総合計画

(株)大林組

設計組織プレイスメディア

【施工者】(株)大林組

Address

C 東大阪市御厨南2-3-4

Review

商店や住宅がひしめき合う駅前にスッと現れた、上質な緑ゆたかなエントランス空間。通常、市民ホールなどの前は広い舗装空間で処理されがちであるが、利用者の動線をうまくコントロールしながら中央に広い芝生空間が確保されている。周囲の喧騒を和らげ、その芝生空間を、景観的・心理的に快適なものとしている。道路際のクスノキ列植。歩道から利用者を建物エントランスにしっかり誘う一筋の道。園路沿いの縁石にはさりげなく、直線的に照明が組み込まれ、象徴的に夜の園路を引き立てている。外部階段の脇に植えられているシンボルツリーとそれを囲むデッキテラス。植えられているヤマザクラの株立ちは自然樹形で10mを優に超えており非常に立派である。事前に樹木の選別、根回りなどの養生がしっかりと施されてきたと見てとれる。回りを囲んでいるデッキベンチは快適なくつろぎの場となるだけでなく、ヤマザクラの根を保護し、さらに生き生きと育てることに配慮されていると見られ、市民に愛される樹木となるに違いない。全体的に非常にシンプルな構成であるが、随所に配慮されたディテールがあり、垢抜けたデザインが場を上質にしている。

((株)庭樹園 當内 匡)

奨励賞

大正通りポケット

【事業主】(有)滋賀建物管理

【設計者】Design SU 白須寛規

【施工者】(株)西村興産

Address

F 柏原市大正1丁目2番3号、2番2号、2番4号

Review

老朽家屋・店舗が連担する市街地を、どのように更新していけばよいのか。柏原駅から続く古い商店街に面したリノベーション施設「大正通りポケット」は、難題にアプローチした好例だ。

一群の敷地を視野に、ミクロなガーデンづくりから始められた再生の方法論は、市街地の一角で空間と生業と人々の関係性を再起動することに成功している。街区の間隙になじむ建物と緑地の配置、吟味されたディテールが包容力を宿す。テナントメンバーが中心になって担う、日常的な管理や、植栽や菜園を活用した工作やお料理、風土に根差したマルシェ等々。ガーデンが涵養するアクティビティが、関係者や参加者の「共」の感性を育んでいる様子うかがえる。地域・社会へ波及する再生の方法論として、期待が膨らむ。(大阪ガス(株) 弘本 由香里)

ランドスケープマネジメント部門

—まちが笑顔になるみどりづくり—

大阪府 知事賞

竹内街道・横大路(大道)活性化実行委員会による 街道沿道の緑の一里塚設置

【活動者】竹内街道・横大路

～難波から飛鳥へ日本最古の官道「大道」～

活性化実行委員会

Address

A 緑の一里塚設置箇所 大阪側(大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町)
奈良側(葛城市、大和高田市、橿原市、桜井市)

Outline

大阪市から奈良県明日香村へ至る日本最古の国道、竹内街道・横大路(大道)の沿道には、長い歴史とその中で培った文化はもとより、食・賑わいといった人を惹きつける多くの魅力が点在している。これら沿道の魅力をつなぎ、多様な交流を促すとともに地域への愛着を醸成するため、平成24年から、かつて街道沿いにあった旅行者の道しるべである“一里塚”をモチーフに『緑の一里塚』の整備を進めてきた。シンボルツリーをはじめとした植樹を中心に道標や休憩施設を配置することにより、沿道地域一帯に「みどりを活かした憩い」の空間を創出するとともに、住みや来訪者が「街道の歴史」を身近に感じる場となっている。なお、竹内街道・横大路(大道)は、平成29年に日本遺産に認定されている。

Review

日本最古の国道と呼ばれる竹内街道・横大路(大道)は、外交の玄関口であった難波津と政治の中心であった飛鳥の宮を結んだもので、その沿道には、長い歴史の中で培われた文化や食・賑わい等の人々を惹きつける多くの魅力が今も数多く残されている。

街道敷設から1,400年の節目を記念して、平成24年からかつての旅行者の道しるべであった一里塚をモチーフとした「緑の一里塚」が平成25年3月の大阪府松原市での整備を皮切りに、令和元年の奈良県桜井市での設置完了まで数年の年月を掛けて12ヶ所整備されてきた。また、平成24年には大阪府と奈良県に渡る12自治体が標記の実行委員会を設立し、街道まつりをはじめ各所でそれぞれの地域活性化のイベントが開催されている。

沿道住民はイベントへの参加や日々の街道ウォークを楽しむばかりでなく、年数回の草刈りをはじめとする日々の維持管理を継続して実施されている。街道の歴史や文化を身近に感じられる場となっており、街道の魅力アップはもとより、地域への愛着の醸成にも大きく寄与している。府県をまたぐ壮大な取り組みであり、歴史の重みを感じさせてくれる貴重な取り組みである。

(大阪府立大学 増田 昇)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 会長賞

市民の森(鏡伝池緑地)

【活動者】京阪ひらかたみどりグループ

Address

B 枚方市楠葉丘2丁目10-1

Review

地域に根差して環境保全や緑化に関する事業を推進する民間団体(NPO法人)と、高度な専門技術力を有する地元の造園会社が都市公園の指定管理者としてタッグを組み、花と緑を軸に地域に開かれた丁寧なマネジメントを重ねている良例である。樹木から草本、球根植物に至るまで、各々の得意分野を活かして満遍なく質の高い維持管理を行う体制が構築されているが、なかでも花に関する独創的な取り組みは刮目に値する。花菖蒲、サクラソウ、ハス、菊といった日本の古典園芸植物である伝統的な花の育成管理を精力的に行い、展示会等を介して園内に独自の彩りを添え、来園者の眼を楽しませている。特に水菖蒲は、その品種の多さ(196品種)、株の多さ(3,500株)において突出しており、技術を広く伝える講習会の開催や最寄駅構内におけるミニ展示等の取り組みも相俟って、多くの人々を誘引している。また、これらの伝統的な花と共に、バラを筆頭に、多様で美しい花々の景が園内随所で四季折々に展開するよう注力している点も特徴的である。コロナ禍においても新たなロックガーデンが誕生し、丁寧な管理のめ美しいアジサイの名所となりつつある。丁寧で高度な技術とそれを活かした多様な試みが、人々と、花と緑のつながりを構築する架け橋となり、地域の住民と公園をつなぎ、地域環境に潤いを与え続けている。

(奈良県立大学 井原 縁)